

(1) 豊中市立図書館

日時 令和4年(2022年)7月13日
出席者 読書振興課 課長 須藤、西口
社会教育課 島津、佐々本、田井(記録)

1. 組織目標

- ・(仮称)中央図書館基本構想 p.41 豊中市立図書館の基本コンセプト「つながる。わたしの図書館で」
- ・豊中市立図書館の中長期計画(グランドデザイン)のキャッチフレーズ「まち、ひと、つながる 好奇心の駅」

2. 現状

- ・「つながり」とは、施設面だけでなく人の人とのつながりも意味する。市民活動の拠点や、国際交流や子育て世代の交流の場にもなる。人とつながったり新たな情報を得たり、図書館の使い方は市民一人ひとり全然違う。WEBでもつながることができる。
- ・地域ごとに施設等が分散しているため、地域の市民がどこに住んでいても利用できる。乳幼児から高齢者まで幅広い年代の市民が利用している。
- ・他部局との連携や、市民協働事業(しょうないREK、北摂アーカイブス)も活発
- ・学校との連携としては、各学校への学校司書の配置により、公共図書館からの支援がある。
- ・ボランティアの存在によって図書館職員だけではできない活動の拡充がある。

3. 主な事業

- ・学校と公共図書館の連携
- ・豊中市子ども読書活動推進計画 策定(現在ははぐくみプランに包含)
- ・市民協働事業(障害者サービス、子ども読書活動、しょうないREK、北摂アーカイブス、図書館サポーター、合同研修、映画会等)
- ・住民生活に光そそぐ交付金(2010年度単年)を機に地域の課題解決事業として医療・健康情報、多文化共生、ビジネス・就労支援、子育て支援等の資料を充実できた。
- ・図書館運営を振り返り、効果的・効率的な運営とより一層の図書館サービスの向上および地域との情報共有を図る仕組みとして図書館評価システムを導入
- ・豊中市立図書館の中長期計画(グランドデザイン)の公表
- ・豊中市(仮称)中央図書館基本構想の策定

4. 課題または今後の展望

- ・必要な情報が必要とする市民へ伝わらないという課題がある。(障害のある市民や外国に

ルーツのある市民などマイノリティへのアウトリーチサービスなど)

- ・デジタル機器を使いこなせる市民と使えない市民とのデジタルディバイド（情報格差）
- ・限られた人材、予算の中での効果的なサービス
- ・人生 100 年時代となり、情報の新陳代謝が激しい状況で生涯学習、リカレント教育やリスキリングなどが注目されている。豊中の多様な社会教育に関する施設がつながるなかで、いぶきや郷土資料館、公民分館など、個人でも団体でもいつでも学びの機会を持てるという環境整備、そのことを市民に広く知ってもらう情報発信が今後重要になると考えている。